



自己点検・評価 News Letter

創刊号
2014.3.

東洋大学
自己点検・評価活動推進委員会



▶ 目次

- 1. 内部質保証システムの確立に向けて 学長 竹村 牧男
- 2. 東洋大学における自己点検・評価活動の推進にむけて 委員長 神田 雄一
- 3. 自己点検・評価とは？
- 4. 自己点検・評価のプロセス(平成25年度)
- 5. 大学教員の責任—PDCAサイクルの確立にむけて 文学部教授 石田 仁志
- 6. Q&A コーナー

1

内部質保証システムの確立に向けて 学長 竹村 牧男

東洋大学は、平成23年度から実施している全学の自己点検・評価を踏まえ、来年度(平成26年度)、大学基準協会による認証評価を受審いたします。今年度はそのための報告書作成を進めてきましたが、その作業の前提として、まず各学科・各専攻において自己点検・評価をしっかりと行っていただき、そのことをふまえて学部・研究科ごとに報告書案を作成していただきました。お蔭様でこの報告書の全体は、今年(平成26年)の1月15日に大学基準協会に提出し、事前の確認を受けることになりました。正式の「点検・評価報告書」は、今年度末(今年の3月末)までに大学基準協会に提出し、秋には実地調査に対応します。この実地調査には全学で一致して対応する必要があり、その準備もなかなか大変なことになるとは思われますが、ご協力くださいますよう、何卒よろしく願い申し上げます。



学長 竹村 牧男

今回の認証評価は、内部質保証システムが確立されているかどうかを主題とするものであり、またその内容としては主として教育活動がとりあげられており、今日の大学の使命のありかを象徴しているように思われます。本学の教育活動は、学部では学科単位、研究科では専攻単位で行われており、したがって自己点検・評価活動も、定期的に学科ごと・専攻ごとに組織的・自律的に行われることが肝要です。さらにもっとも重要なことは、各学科・各専攻が自覚した自らの課題に対し、改善の具体的な目標を立て、さらにその目標を達成する具体的な計画を立てて、そしてその計画を着実に実行していくことです。

各学科・各専攻におかれては、昨年中に中期目標・中期計画を策定されたことと思います。それは向こう4年間の計画となっていると思いますが、各年度においてその進捗状況を点検・評価し、着実に目標達成をはかっていただくことも大事です。こうした地道な努力こそが、本学のブランドカアアップにつながるようになります。

そもそも認証評価の受審は、これを機に、よい点はさらに伸ばし、不十分な点を改善していくことに意味があるわけで、この改善・改革を自ら実行するのでもなければ、受審の意味もありません。またこのことを自主的に進めていくときに、内部質保証システムも確立されていると言えることとなります。私どもは、大学基準協会の審査・評価結果を待つことなく、すでに判明した問題点等に真摯に対処していきたいものです。

「自己点検・評価 News Letter」の創刊は当に時期を得たものと嬉しく思います。周知のとおり今年度は大学基準協会による認証評価受審の年でもあり、また新たな自己点検・評価活動も二年目を迎えて実のある活動の展開を目指している時でもあります。

本学における全学的な自己点検・評価活動の取り組みを振り返りますと、平成10年度の「自己点検・評価委員会」の設置に始まり、当初は各学部の自己点検・評価活動や授業評価アンケートの支援さらに広報誌「ひろば」の刊行などが主体でありました。その後、大学を取り巻く環境も大きく変化し高等教育の質保証が強く叫ばれ、平成16年度から全ての大学において定期的な認証評価を受ける仕組みができる中で本学も平成19年度に大学基準協会の認証評価を受審した経緯があります。さらに昨今では内部質保証システムによるアウトカムアセスメントが求められております。このような中で本学では自己点検・評価機能のさらなる強化・充実のために平成23年度より従来の委員会組織を発展的に解消し、「自己点検・評価推進委員会」を新たに発足させると共に事務組織も大学評価支援室を設置して業務の充実を図ってまいりました。

自己点検・評価推進委員会では、新たなミッションの一つとして全学的な自己点検・評価を毎年実施することを挙げております。さらに自己点検・評価活動をオープンにし広く学内外へ本学の活動を発信しております。昨年度実施しました評価結果は、昨年3月に「平成24年度自己点検・評価報告書」として学長に提出しました。報告書には、自己点検により浮かび上がった全学的な課題についても言及させていただきました。本年度には昨年の反省を踏まえて点検項目やフォーマットの改善を行い、44学科30専攻の自己点検・評価を実施し、さらに評価結果について自己点検・評価推進委員によるピア・レビューを実施するまでになりました。このような活動が短期間で実施できたことは本学教職員の自己点検・評価への見識の高さを示すものでしょう。自己点検・評価を大学マネジメントの一環に正しく位置づけ、いわゆるPDCAサイクルを廻すことにより内部質保証システムとして機能させることこそが本学の教育の質向上に資すると考えます。



自己点検・評価活動推進委員会
委員長 神田 雄一

「自己点検・評価 News Letter」が自己点検・評価活動の情報共有の場として活用され、本学における教育の質向上の一助になれば幸いです。引き続き教職員の皆様には本学の自己点検・評価活動にご理解とご協力をいただきたくお願いいたします。

大学が、教育研究水準の向上や活性化に努めるとともに、その社会的責任を果たしていくため、その理念・目標に照らして自らの教育研究活動等の状況について自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己評価を行うことです。

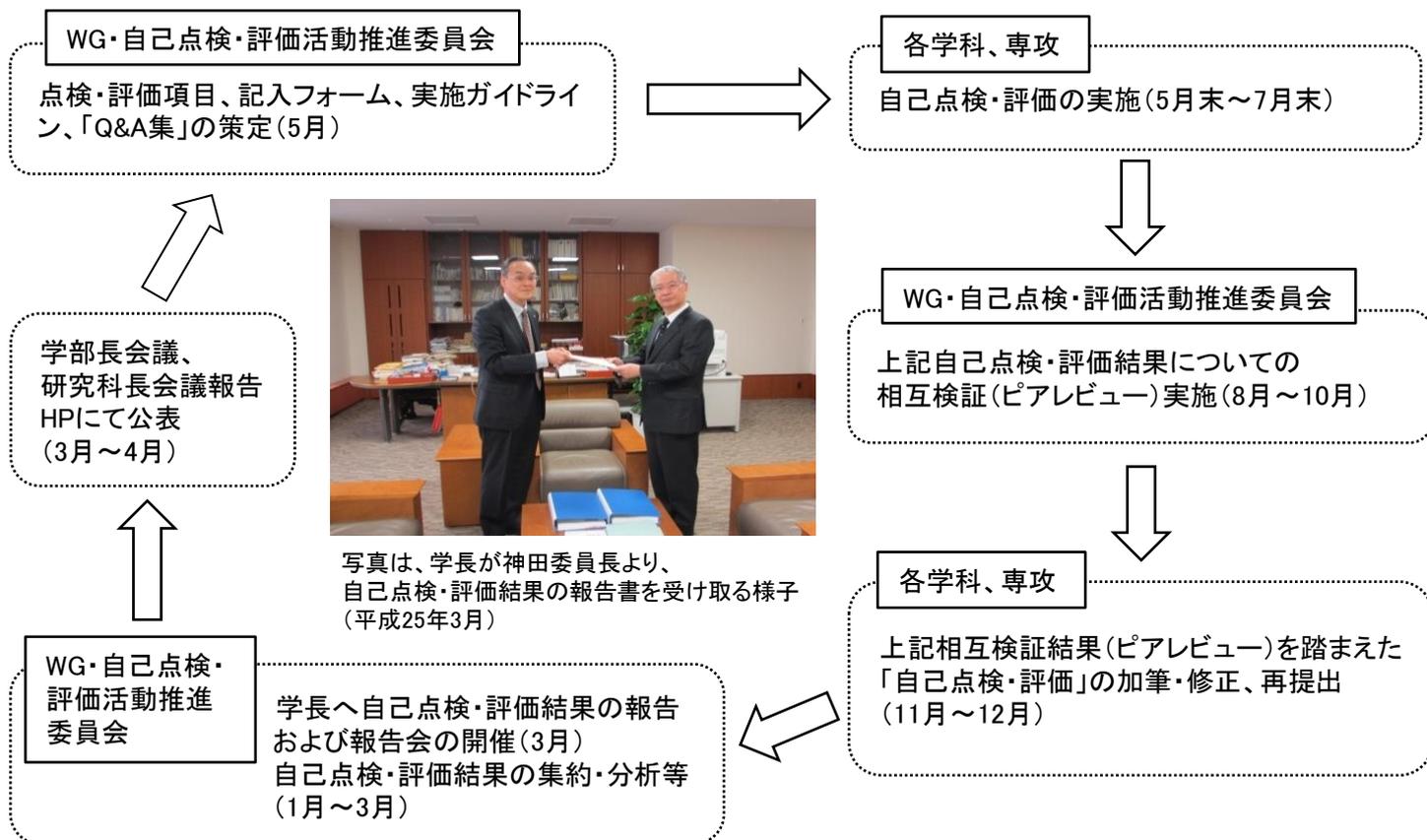
※学校教育法第109条(平成16年度改正)― 抜粋 ―

大学は、その教育研究水準の向上に資するため、文部科学大臣の定めるところにより、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備(次項において「教育研究等」という。)の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 大学は、前項の措置に加え、当該大学の教育研究等の総合的な状況について、政令で定める期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた者(以下「認証評価機関」という。)による評価(以下「認証評価」という。)を受けるものとする。

本学のこれまでの経緯

- 平成10年度より、東洋大学自己点検・評価委員会を設置し、各部署の自己点検・評価活動の支援・調整を行うとともに、広報誌『ひろば』の刊行、講演会の実施、授業評価アンケートの学部相互間の情報共有などを行ってきました。
- 同委員会では、委員会の役割が、各部署の支援・調整にとどまっていたために、全学的な自己点検・評価活動の実施には至らず、自己点検・評価活動は各部署に委ねられていました。
- その結果、独自に項目を設定して自己点検・評価活動を実施している学部等もあれば、『年次報告書』の編集・発刊をもって自己点検・評価としている学部、授業評価アンケートのみの学部等が混在していました。
- 平成23年度より、自己点検・評価を実施するための機能を強化するために、委員会を、副学長を委員長とした東洋大学自己点検・評価活動推進委員会に発展的に改組するとともに担当事務局を学長室から大学評価支援室へと変更しました。
- 東洋大学自己点検・評価活動推進委員会では、平成23年度から、評価項目を大学基準協会の認証評価の評価項目に合わせ、全学的統一のフォーム・ガイドラインを定めて、全学部・学科、全研究科・専攻の自己点検・評価を実施しています。



大学の自己点検・評価とは本質的には自律的、恒常的に行っている学部・学科の教育研究活動そのものにすぎない。しかし、自らの教育研究活動への評価は自己満足的で、社会の要請に応えるという本来の目的を見失いやすい。今年は大学基準協会の認証評価の2回目の受審となるが、前回の認証評価から東洋大学はどのような教育研究の改革を成し遂げてきたのだろうか。特に今回の認証評価の目的は、大学が自らの点検評価活動を自律的に展開し得る体制、つまりは教育研究の内部質保証体制、PDCAサイクルを構築しているかを確認することにある。それは裏返せば、日本の大学では組織としての自己点検評価活動が定着していないということの意味する。

私は文学部の委員を3年間務めてきたが、持続的で実効的なPDCAサイクルの構築の難しさを痛感する。例えばカリキュラムの体系化という問題。文学部は現在第1部・第2部・通信教育部の3部7学科体制で、その教育研究領域は専門化・細分化され多岐にわたる。カリキュラムも教育方法も多様であり、多面的である。それは一つの魅力である。しかし、そうした各学科のカリキュラムや教育方法を点検評価する体制が組織化されているのだろうか。カリキュラムの体系化には、科目のナンバリングが有効だといわれるが、それは一方で個々の教育内容を一定程度まで縛ることになる。そうした権限と責任はどこにゆだねられているのだろうか。あるいは学部単位でのFD活動も単発的であって、学部を挙げて方向性やテーマを議論する機運は弱い。

大学教育は社会をリードするものでなければ意味がない。「変わる大学」(『日経新聞』)、「教育2014 世界は、日本は」(『朝日新聞』)など、新聞各社がしきりに大学教育改革特集を報道するように、急速に変化し続ける現代社会の中で大学教育も変化を求められている。そうした社会の要請に対する確で、スピード感のある教育改革を実行するためには、教員個々の力量の向上とともに、教育を支えるしっかりとした組織作りが急務であると思う。むろんそのための人材と経費が不可欠であることも忘れてはならない。

しかし、PDCAサイクルの構築＝教育改革ではない。必要なのは、まさしく教育研究に対する「哲学」であり、それを我々が共有することだろう。PDCAサイクルとは自らの教育研究のあり方を常に検討し、決定し、そして公開する、その自覚と自信を支える仕組にすぎないはずだ。

(文学部自己点検評価委員会委員長 石田仁志)

Q. 何故、七年に一回の認証評価だけでなく、自己点検・評価まで実施しなければいけないのですか？

A. 認証評価を1年に1回の健康診断だとすれば、自己点検・評価は、毎日や毎月の自発的な体重測定のようなものであり、自分の理想や自分で決めた目標の実現のために、自分の現状を点検・評価し、次のプランを立てるために行うものです。本来、個人ならば、それを強制されるものでも、公表が必要なものでもありませんが、公共性や社会的責任を明確にすることが求められる大学においては、それを実施し、社会に公表することが法令によって義務付けられています。

Q. 自己点検・評価を行うことに、どんな意味がありますか？

A. 大学の教育研究活動は、個々の教員に委ねられていますが、大学は、自主的・自立的に運営される機関なので、大学の教育・研究等の質を担保するためには、自ら、何をすべきかを考え常にその向上を目指すことが求められています。すなわち、自己点検・評価を充実させ、「質の向上」を目指して活動していること、そのことを積極的に社会やステークホルダーに対して発信・説明することで「質の保証」に取り組んでいることを第三者的立場から保障することなのです。

(注)それぞれの「A」については、一つの試案にすぎないものです。

Q. 本学の自己点検・評価は、大学基準協会の基準と評価項目に沿って実施していますが、うちの大学や学部の自己点検・評価には適していない基準や評価項目もあるのではないですか？

A. そのとおりです。本来、自己点検・評価は、現在の大学の諸活動や現状が、自らの理念・目的に沿って行われ、成果が上がっているかどうかについて実施するものであり、たとえ外部の基準・評価項目を使用するとしても、その基準・評価項目をよく読み解き、本学の現状にあった解釈をすることが必要です。平成23年度の自己点検・評価では、大学として、全学科・全専攻で定期的に行うことができなかったことに加えて、平成26年度に認証評価を控えていたため、暫定的に、大学基準協会の基準と評価項目で実施しましたが、今年度からは、現在の本学の教育目標である「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」の3本の柱を自己点検・評価の項目に加えました。また、各学科・専攻でも、独自に評価項目を加えることができるようにしています。このことについては、大学全体としても、自己点検・評価活動推進委員会を中心として、今後、継続的に議論していく予定です。



ひょうかクン

創刊号はどうだった？
みんなの感想を聞かせてね☆
これからもよろしく♪

大学評価支援室の紹介

自己点検・評価活動推進委員会の事務と大学評価統括本部の庶務を担当している大学評価支援室は、白山キャンパス8号館7階にあります。ご不明な点、ご質問等ございましたら、お気軽にお問合せください。また、自己点検・評価のキャラクター「ひょうかクン」から、身近な話題をお届けしたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

編集後記

ようやく『自己点検・評価 News Letter』(創刊号)が発行されました。「点検評価」という言葉は、今でこそ会議などで普通に耳にするようになりましたが、このことが、法令に基づく活動であることなど、意外と知られていないと思うことがあります。本誌の発行で、自己点検・評価の重要さが、より周知されることになれば幸いです。(河)

「内部質保証」の実質的活動の推進のために、自己点検・評価活動推進委員会が平成23年に設置され、活動推進に関わるニューズレターを委員会設置3年目で発行できました。

これは本学関係者各位とスタッフの多大なるご協力によるもので、感謝申し上げます。(鈴)

自己点検・評価ニューズレター 創刊号

2014年3月 発行

発行 東洋大学 自己点検・評価活動推進委員会
編集 神田 雄一 (自己点検・評価活動推進委員会委員長)
河地 修 (編集WG委員)、鈴木 哲郎 (編集WG委員)

東洋大学 大学評価支援室 〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20
TEL : 03 (3945) 7408 FAX : 03 (3945) 7395
URL : <http://www.toyo.ac.jp>

